

図書館部報

岡崎市現職研修委員会
学校図書館部
令和3年1月22日
No. 3

頭の中に世界を広げられているか

岡崎市現職研修委員会学校図書館部
部長 美合小学校長 大西裕子

「ななめ上から、真っ赤なあめ玉のように光った夕日が、今にもしずもうとしながら、かっとさしこんでいた。…(略)木のいすが、コトリ、コトリと、おほりばたの白い道を、足を引きずるように歩いていく…『イナイ、イナイ、ドコニモ…イナイ…』」…

この部分から、本の題名が分かる方が何人いるでしょうか。そして、皆さんの頭の中にどんな情景が描かれたのでしょうか。

これは松谷みよ子氏の「ふたりのイーダ」という児童書の一部分で、子供時代に読んだ本です。独り言をつぶやきながら歩く椅子が妙に印象的で映像として残っていました。

自粛期間、何げにこの本を手に取り一気に読みました。深い話だったんだなあ、改めて感じると共に、素敵な情景描写・心理描写が多くあったんだなあ、幼い頃はこんなことに気づけなかったと、長い歳月を経て再会した本に、多くの発見がありました。

「ひろしまのピカ」や「原爆の囃」の作者・丸木俊子氏と親交のある松谷氏が「書かなくてはなりませんね」「二十世紀に生まれた私たちの責任です」と、短い言葉のやりとりを交わしたというあとがきも、作者の思いまで考えることができ、新鮮で心に残りました。

さて、各学校では、工夫を凝らして朝の読書タイムや読み聞かせなどが行われていると思います。私も読み聞かせの時間に教室を回ります。じっと絵本を見つめ、耳を澄ましている子供たちを見ると微笑ましく感じます。上学年になると、絵本ではなく、時々挿絵を見せる程度で厚みのある本を読み聞かせている学級もあります。中学生なら当然、自分のペースで黙々と読書にふけっていることでしょう。そんな子供たちを見ながらいつも思うのは、この子供たちの頭に、今どんな世界が広がっているのかな、様々な世界を広げられているのかなということです。もしかしたら言葉だけが耳から耳へと抜けている子や、ただ活字を追いかけているだけの子はいないかしらとも思います。

よく読書の世界で、絵から活字への移行は中学年くらいだと言われます。私も子供たちの読書傾向や自分の経験から、そうだろうと思います。言葉から受けたイメージを自分で映像化し始めているのではとも考えます。作者による人物や情景の描写に自分で色や動きをつけているともいえるでしょう。こうした一連の「読む」という作業の連続・継続が、想像力を育み、豊かな心の醸成へとつながるのではと考えます。

本を読んで頭の中の世界を広げ、自分の思いや考えを形成し、それを仲間と共有する。そんな読書生活ができれば、学校図書館部の重点目標「豊かな心情を培い、主体的に学ぶ力を育てる」が、達成されることでしょう。巣ごもりの多いこの時期、皆さんはどんな本との出会いができたのでしょうか。



～各学校図書館のコロナ対策その2～

児童・生徒たちにとって、先生や地域の方々による「読み聞かせ」は新しい本と出会う大切な機会です。また、それを通して地域や他学年と交流することも楽しみの一つです。今回は、コロナ禍の中、いろいろな学校で工夫して行われた「読み聞かせ」の様子を紹介します。

小学3年生道徳（内容：正直・誠実）で『なんだろうなんだろう』（ヨシタケシンスケ 作/三ツ村図書/1,500円＋税）を資料として授業を行いました。「うそってなんだろう」の見開きページを、イラストと文字をコマごとにパワーポイントのアニメーションでゆっくりとテレビ画面に提示して、読み聞かせを行いました。

絵が映し出されると子供たちは自然につぶやき、文字が現れるとじっくりと読んで考え、絵本の投げかけを考えたとうえで立場を決めて、活発な話し合いを行うことができました。この本は小学1年生から3年生までの道徳の教科書で1テーマずつ採用されていますが、12のテーマがあるのでさらに活用できそうです。

見開きを8ページに分け、絵や文章が複数のものは下図のようにアニメーションにしました。



（大樹寺小 松本友子）

秋の読書週間に合わせ、図書委員の生徒たちが「月1図書ラジオ」を企画しました。「一人でも多くの友達に図書室の本を読んでほしい」という思いから、月に一度のペースで、図書室の本の紹介や読み聞かせを、お昼の放送で実施しました。

放送後、「放送で紹介した本は、どこにありますか」「こんな本が読んでみたいです」といった声を聞くことができました。図書室へ来る生徒たちの読書への関心が、高まっているのを感じました。

図書委員会での企画をきっかけに、図書室が少しでも生徒たちにとって身近な場所になることを願うばかりです。



（常磐中学校 加藤 佑恭）

岩津中では生徒集会や給食時のTV放送で、図書委員会&文化芸術部による読み聞かせを行いました。絵本を画面に写し、生徒が本文を読みました。また、翔南中ではボランティアの方に事前に収録させていただいたものを放送で流して読み聞かせを行いました。

美合小では、読み聞かせをしてくださる方々には、マスク、フェイスシールドの着用をしていただいています。また、子供たちも間隔をとって聞いています。そのため、絵が見えないときは、教材提示器を使うなどの工夫をしています。

読み聞かせではありませんが、根石小では『かいけつゾロリ』の作者である原ゆたか先生を招いての講演会を実施しました。児童は低・中・高学年に分かれて体育館に入り、原先生には3回同じ講演を行っていただきました。講演では、作家さんがどのような気持ちで絵本を書いているのかということを知ることができ、児童にとってとても貴重な経験となりました。



【今後の主な予定】

- 1月上旬～2月上旬 第3回SLBA図書注文
- 1月上旬 「読書感想文・読書感想画優秀作品集」チラシ配布・注文
- 1月22日 注文締め切り
- 1月29日 賞状配付・感想画返却等（各校）
- 2月下旬 「読書感想文・読書感想画優秀作品集」発行

